

2019年度 緩和医療学特論 I

8月29日(木) 5限(16:35~18:05) 『緩和医療概論・

専門的緩和ケア実践のためのキャリアパス』



緩和ケアは、がんや神経難病などの患者の療養生活と死への過程を支える全人的ケアの臨床経験から発展した歴史的な過程がある。そのアプローチには、良好な症状コントロールを含む QOL を重視した取り組み、優れたコミュニケーション技術、そして、全人的なアプローチといったあらゆる臨床実践の基本となる要素が含まれている。医療者として欠かせないこれらの基本的緩和ケアの知識・技術に加えて、地域での緩和医療活動や大学院での研究活動など演者のキャリアパスを紹介し、専門的緩和ケアを実践する医療者として求められるプロフェッショナリズム、その実現に向けたコンピテンシーとは何かを皆さんと一緒に考えたい。

三重大学医学部附属病院緩和ケアセンター

松原貴子助教

8月29日(木) 6限(18:20~19:50) 『身体的問題(1);呼吸症状の評価とマネジメント
~終末期をどう支えるか、苦痛緩和のための鎮静をどう考えるか~』



がん患者の症状は多彩である。ここでは主に呼吸困難の評価、原因に対する治療、対症療法について、日本緩和医療学会のガイドラインに即した標準的な治療戦略から、ちょっとしたケアの工夫までを概説する。さらに、終末期の難治性苦痛に対する鎮静についても簡単に解説する。様々な苦痛症状の緩和において共通する「基本的考え方」と「多職種チームアプローチ」を理解するきっかけとしていただきたい。

駒込病院緩和ケア科

田中桂子部長

8月29日(木) 7限(20:05~21:35) 『非がん疾病の緩和ケアと在宅医療』



緩和ケアは疾患や年齢を問わず、生命を脅かす疾患による問題に直面しているすべての患者とその家族に対して提供されるべきケアである。つまり、緩和ケアの対象はがんのみならず、多くの非がん疾患に、また成人のみならず小児にも及ぶ。現代人のほとんどの人(約6割)に緩和ケアのニーズがあり、緩和ケアを必要とする人たちには疾患に関わらず、何をにおいても優先して医療とケアがとどけられなければならない。本講義では、在宅でのがんの緩和ケアの実際と主要な非がん疾患(心不全、COPD、認知症、神経難病等)の緩和ケアの実際と考え方について解説する。

梶原診療所 平原佐斗司 所長

オレンジほっとクリニック 地域連携型認知症疾患医療センター長(兼務)

8月30日(金) 5限(16:35~18:05) 『心不全の緩和ケア』



心不全とは、「心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気。」と定義されています。世界保健機関(WHO)によると、循環器疾患は人生の最終段階に緩和ケアを必要とする疾患の第1位です。日本でも、2018年4月より「末期心不全」が緩和ケア診療の対象に加わり、社会的な関心が高まっています。

本講義では心不全に対する最新の治療を示した後に、末期心不全患者の緩和ケアに関して自験例を提示しながら、どのように取り組んでゆくのかを概説します。

内科学講座

横山直之准教授

8月30日(金) 6限(18:20~19:50) 『身体的問題(2);痛みとその対処』



緩和医療学講座
有賀悦子教授

がん疼痛治療薬の種類や剤型は年々増えている。根幹である WHO 三段階除痛ラダーに沿って整理しつつ、それらの薬剤の特性を知ることが重要である。がん疼痛緩和の臨床例から薬物の選択、併用方法、副作用対策、突出痛の種類と対応方法、スイッチング、投与ルート変更方法などから参加者の経験に合わせ選択し、解説する。計算や指示の出し方など演習を取り入れる予定である。

8月31日(土) 1限(9:00~10:30) 『精神的問題とその対処』



精神神経科学講座
枋木 衛 教授

終末期のがん患者は、身体的・精神的に脆弱となっているだけでなく、身体的な問題が存在するために精神的な問題の評価も困難となっている場合が多い。緩和医療に関わる医療従事者は、がん患者に特有の精神的問題とその評価方法、ならびに基本的な対処方法についての知識を有しておくことが望まれる。本講義では、家族に対するケアの視点も含めたがん患者の精神的問題全般についての解説を行う。

8月31日(土) 2限(10:45~12:15) 『緩和的抗がん治療 ~薬物療法・支持療法、IVR 含む』



緩和医療学講座
高木雄亮助教

緩和医療の本質である全人的ケアと、それを効果的に患者に届けるため必要なオンコロジーと緩和医療の統合(integration)を中心に解説する。早期からの緩和ケアはがん患者の予後を改善させるが、がん治療中に行われる緩和医療には依然として施設間・施設内格差があるのが現状である。がん患者の QOL を向上させるため、リソースの異なる個々の施設がそれぞれに合った integration の形を見つけるために何ができるか、本講義で考えていきたい。

8月31日(土) 3限(13:05~14:35) 『身体的問題(3);消化器症状とその対処 ~緩和ケア的外科治療を含む』



緩和医療学講座
大澤岳史 講師

消化器がんだけでなく、すべてのがんにおいて消化器症状の頻度は比較的高い。本項ではがん患者の消化器症状のうち比較的高い悪心・嘔吐、コントロールに困ることの多い腸閉塞を中心に、薬剤的な症状コントロールから治療、手術適応まで症例を検討しつつ概説する。